

川本産業のホームページもご覧ください。



<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>



## 第82期報告書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

P1……………トップメッセージ  
 P5……………トピックス  
 P6……………製品のご案内  
 P7……………財務諸表  
 P9……………会社概要  
 P10……………株式情報

### 株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日  
 剰余金の配当基準日 3月31日  
 (中間配当を行う場合は9月30日)  
 定時株主総会 毎年6月下旬  
 単元株式数 1,000株(平成24年7月1日より100株)  
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社  
 上場取引所 株式会社東京証券取引所 市場第二部  
 株式会社大阪証券取引所 市場第二部  
 証券コード 3604

<郵便物送付先・お問い合わせ先>

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
未払配当のみ、みずほ銀行 全国本支店でもお取扱いいたします。		
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取り以外の株式売買はできません。 (特別口座に記録したままでは、株式を証券取引所で売買することはできません。)

公告方法 電子公告 (<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>)  
 ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

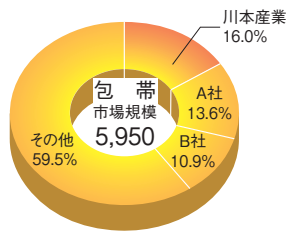
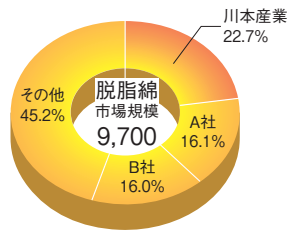
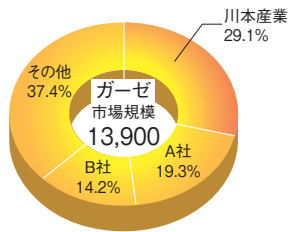
支払通知書に関してご留意いただきたい事項  
 「支払通知書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成するものであり、株主さまが確定申告を行う際に必要となる場合があります。  
 当社がお支払いする配当金については、株主さまにお送りしております「配当金計算書」を「支払通知書」としてご利用いただくことができます(但し、株式数比例配分方式を選択された場合については、お取扱いが異なりますので、お取引の証券会社にお問い合わせください)。ご不明点については、みずほ信託銀行株式会社 証券代行部にお問い合わせください。





代表取締役社長  
**川本 武**

■2009年度ガーゼ・脱脂綿・包帯  
医家向けシェア (単位: 百万円)



注：メーカー出荷ベース  
出所：株式会社矢野経済研究所「医療・衛生用品の市場実態と製品別需要動向」をもとに弊社で作成

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清祥のことと拝察申し上げます。平素は格別のご支援ご愛顧を賜わり厚くお礼申し上げます。

さて当社第82期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）事業年度を終了いたしましたので、事業の概況並びに主要事項をご報告申し上げます。

**Q** 当期の業績はいかがだったでしょうか

**A** 厳しい環境のなか、利益重視策を推進したことも影響して、減収増益となりました

当期におけるわが国経済は、一部で穏やかながら復調の兆しはありますが、厳しい雇用環境や海外での不安定な経済情勢の影響により、先行きに対する不透明感は払拭されておりません。当医療衛生材料業界におきましても、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況下で、利益重視策を推進したことも影響して、売上高297億7百万円（前期比2.0%減少）、営業利益4億21百万円（同3.2%減少）、経常利益3億60百万円（同54.6%増加）、当期純利益1億72百万円（同26.3%増加）となりました。

部門別の業績概況は、次のとおりです。

メディカル部門（国内向け）は、製品では、「感染予防製品」において競争の激化した一部製品の販売を見直したため売上高が減少いたしました。また、「口腔ケア用品」は製品力及び販売体制の強化により増加いたしました。他の重点販売製品の「セットパック製品」は増加いたしました。また、「ステリコットα」は、震災後の生産量減少の影響によりほぼ前期並みとなりました。

た医療用ガーゼ・脱脂綿につきましては、販売価格への適正転嫁を進めてまいりました。一方、商品では、大手量販店向けの販売では提案型営業の一層の強化により増加いたしました。一部、低収益製品の販売見直しを行った影響により医療用品が減少いたしました。これらの結果、売上高は269億29百万円（同1.9%減少）となりました。

メディカル部門（海外向け）では、中近東を中心とした幅広い市場に対して衛生材料及び医療用品等の国内製品群に海外調達品を加えた製品を積極的に販売活動を展開いたしました。円高が継続したことと中近東の市場における医療機器輸入制度の改正や不安定な中東の政治動向などの国際情勢の影響を受けて、売上高は10億円（同4.5%減少）となりました。

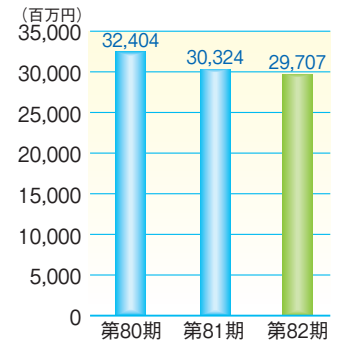
アパレル部門では、ベビー用衣料品は顧客の要望を取り入れた製品開発を重点的に行ったことや量販店向けの取引関係の強化に努めたことで増加いたしました。素材販売及びぬまきは市場縮小による減少傾向が継続しており、売上高は17億77百万円（同3.2%減少）となりました。

利益面では、製品の売上総利益率が改善したことにより売上総利益率は19.3%と前年同期から0.7ポイント上昇いたしました。

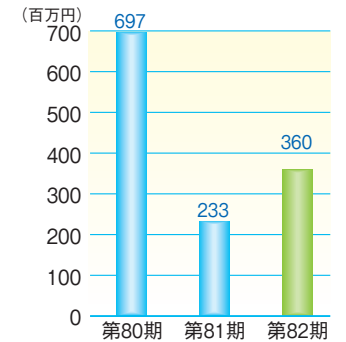
経費面では、販売費及び一般管理費は人件費、及び運賃関連経費が増加して53億16百万円（同1.9%増加）となりました。

営業外収益では、デリバティブ評価益（為替予約評価益）が83百万円発生し、営業外費用では為替差損が95百万円発生いたしました。

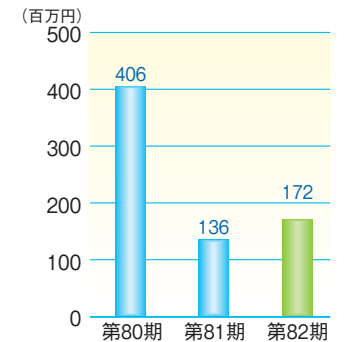
■売上高



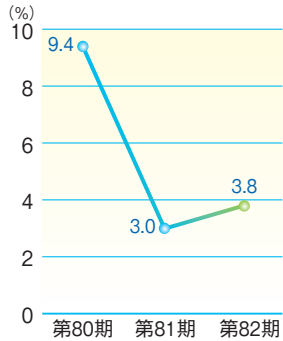
■経常利益



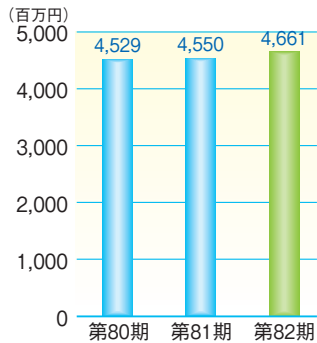
■当期純利益



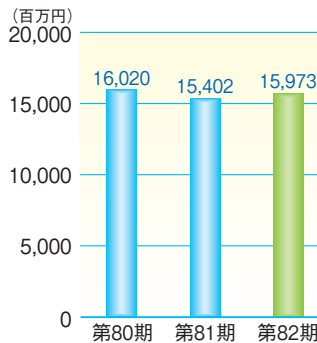
■自己資本当期純利益率



■純資産



■総資産



Q

次期の展望と今後の見通しについて  
お話しください

A

販売面では、販売管理体制の一部統合により、営業力強化をはかります。また、物流面では、近畿圏の物流機能のアウトソーシング化を推進し、効率化をはかります

次期の見通しにつきましては、国内の人口減少に伴う需要低下が見込まれるなかで、欧州の財政問題などの国際的な不安定要因も加わり、引き続き厳しい経営環境が続くものと思われまます。

このような状況のなかで当社は、今後も「開発体制」・「生産体制」・「販売体制」・「物流体制」の強化・効率化に、全社をあげて取り組んでまいります。

開発面では、マーケティング力を活かした付加価値の高い製品の開発に一層努めるとともに、生産面では、大阪工場・埼玉工場・上海の協力工場の3生産拠点の役割の明確化と総合的な合理化策を継続的に実施いたします。

販売面では、平成24年4月より販売管理体制を変更し、メディカル部門国内向けとアパレル部門の統合を行い「国内向け」部門とし、国内の取引先へ幅広い製品群を総合的に販売することで営業力強化を図ってまいります。当統合により、当社の事業部門は「国内向け」と「海外向け」の2部門となります。

物流面では、近畿圏の物流機能のアウトソーシング化を推進することによって、在庫回転率の向上・物流関連費用の変動費化を進めてトータルコストの削減を行い、一層の効率化を実施してまいります。

海外向けでは、諸外国で開催される展示会に継続的に出展するなどの営業活動を重点的に展開し、開発力を活かした製品の販売強化や新市場の開拓などを積極的に推進してまいります。

次期の業績につきましては、売上高303億30百万円（前期比2.1%増加）、営業利益4億90百万円（同16.1%増加）、経常利益3億80百万円（同5.4%増加）、当期純利益2億19百万円（同26.7%増加）を予想しております。

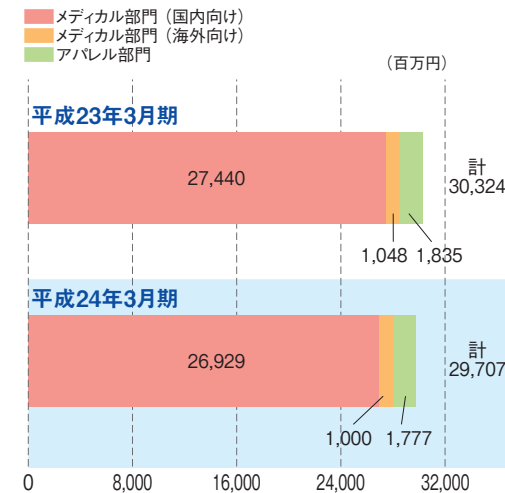
(注) 予想数値につきましては、本資料の作成日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の実績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。



手術・検査・処置用品を組み合わせた  
滅菌製品  
「セットバック製品」

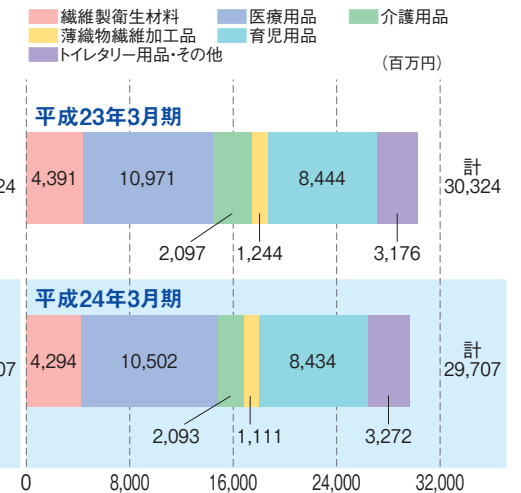
部門別・品目別の売上高

■部門別売上高



\*アパレル部門…当期より、テキスタイル部門から改称いたしました。

■品目別売上高

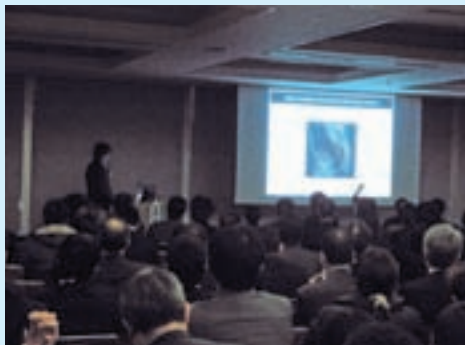


\*当期より、品目区分を変更いたしました。

## ランチョンセミナーを開催いたしました

当社は、昨年12月9日「第24回日本内視鏡外科学会総会」において、ランチョンセミナーを開催いたしました。（会場：大阪国際会議場）250名を超える外科医の先生方にお越し頂き、会場は満席となりました。

テーマ：手術進行が手術のQualityを決める！  
 一直腸がんに対する腹腔鏡手術を徹底解析してー  
 司 会：聖マリアンナ医科大学東横病院 消化器病センター  
 宮島伸宜先生  
 演 者：大阪大学消化器外科 竹政伊知朗先生



セミナーでは、当社製品である鏡視下臓器圧排用スポンジ「エンドラクター®」を使用した結果、手術の効率性が上がったこと等を発表して頂き好評を博しました。その結果、製品への引き合いも多数頂くことができました。



宮島伸宜先生（右）  
竹政伊知朗先生（左）

### エンドサポート™J

腹腔鏡下臓器保護用スポンジ  
 「エンドサポート™J」  
 （平成24年2月発売）

#### ■製品特長

- ・ やわらかく、臓器に対して愛護的なスポンジ素材のため、臓器損傷リスクを低減します。
- ・ すべりにくい素材のため、臓器をしっかり押さえることができます。
- ・ 圧排を保持できる時間が長くなり、剥離操作を連続して行うことが可能です。
- ・ アーチ型に湾曲しているため、腸壁や前立腺などにもフィットしやすく、鉗子でも押さえやすい形状です。
- ・ 内径12mm以上のトロカールから挿入・取り出しが可能です。
- ・ X線造影材を溶着しているため、X線で判別が可能です。



### KBMニトリル手袋 エクストラソフトパールホワイト

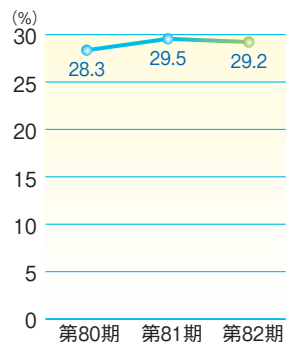
医療用使い捨て手袋  
 「KBMニトリル手袋 エクストラソフトパールホワイト」  
 （平成24年夏発売予定）

#### ■製品特長

- ・ 優れた伸縮性、フィット感があり、細かな作業にも適しています。
- ・ 合成ゴムを使用しているためラテックスアレルギーの心配がありません。
- ・ 高強度で柔軟性に優れています。
- ・ サイズはSSからLまでの4種類があります。



自己資本比率



資産の部

① 流動資産

流動資産は前期末に対して6億99百万円増加いたしました。  
「現金及び預金」が5億41百万円増加、「受取手形」・「売掛金」が22百万円増加、「たな卸資産」が1億75百万円増加、「短期貸付金」が25百万円減少したことが主な要因です。

② 固定資産

固定資産は前期末に対して1億28百万円減少いたしました。  
有形固定資産では「建物」・「構築物」・「機械及び装置」が償却等により89百万円減少、「リース資産」が54百万円減少、投資その他の資産では「投資有価証券」が39百万円増加、「長期貸付金」が25百万円増加、「繰延税金資産」が35百万円減少したことが主な要因です。

負債の部

③ 流動負債

流動負債は前期末に対して11億30百万円減少いたしました。  
「支払手形」・「買掛金」が71百万円減少、「短期借入金」・「1年内返済予定の長期借入金」・「1年内償還予定の社債」が10億29百万円減少、「未払金」が未払消費税の減少等により34百万円減少したことが主な要因です。

④ 固定負債

固定負債は前期末に対して15億91百万円増加いたしました。  
「長期借入金」が17億79百万円増加、「リース債務」が54百万円減少、「退職給付引当金」が52百万円減少、「為替予約」が83百万円減少したことが主な要因です。

貸借対照表

(単位:千円)

	平成24年3月期 (平成24年3月31日現在)	平成23年3月期 (平成23年3月31日現在)
① 流動資産	11,026,746	10,326,973
② 固定資産	4,947,007	5,075,105
有形固定資産	3,761,580	3,914,095
無形固定資産	50,303	46,935
投資その他の資産	1,135,123	1,114,074
資産合計	15,973,753	15,402,078
③ 流動負債	7,887,161	9,017,485
④ 固定負債	3,425,507	1,834,186
負債合計	11,312,668	10,851,672
株主資本	4,560,643	4,478,098
資本金	883,000	883,000
資本剰余金	1,192,597	1,192,597
資本準備金	1,192,597	1,192,597
利益剰余金	2,488,712	2,405,784
利益準備金	86,100	86,100
その他利益剰余金	2,402,612	2,319,684
配当引当積立金	5,000	5,000
別途積立金	1,000,000	1,000,000
繰越利益剰余金	1,397,612	1,314,684
自己株式	△ 3,666	△ 3,282
評価・換算差額等	100,441	72,307
その他有価証券評価差額金	100,441	72,307
純資産合計	4,661,084	4,550,406
負債及び純資産合計	15,973,753	15,402,078

損益計算書

(単位:千円)

	平成24年3月期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)	平成23年3月期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
売上高	29,707,507	30,324,611
売上原価	23,968,802	24,672,880
売上総利益	5,738,704	5,651,731
販売費及び一般管理費	5,316,794	5,215,968
営業利益	421,910	435,763
営業外収益	152,679	69,854
営業外費用	213,958	272,398
経常利益	360,631	233,219
特別利益	13,112	68,843
特別損失	5,193	55,986
税引前当期純利益	368,550	246,076
法人税、住民税及び事業税	157,897	116,237
法人税等調整額	37,837	△ 6,943
当期純利益	172,815	136,781

株主資本等変動計算書

平成24年3月期 (平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位:千円)

	株主資本								自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
当期首残高	883,000	1,192,597	1,192,597	86,100	5,000	1,000,000	1,314,684	2,405,784	△ 3,282	4,478,098
当期変動額										
剰余金の配当								△ 89,887	△ 89,887	△ 89,887
当期純利益								172,815	172,815	172,815
自己株式の取得									△ 383	△ 383
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)										
当期変動額合計								82,927	82,927	△ 383
当期末残高	883,000	1,192,597	1,192,597	86,100	5,000	1,000,000	1,397,612	2,488,712	△ 3,666	4,560,643

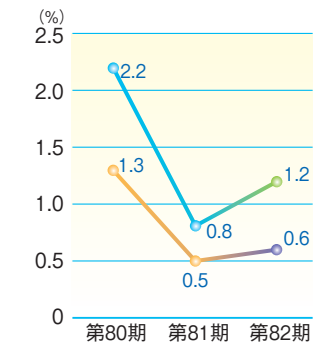
	評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	純資産 合計
当期首残高	72,307	72,307	4,550,406
当期変動額			
剰余金の配当			△ 89,887
当期純利益			172,815
自己株式の取得			△ 383
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	28,133	28,133	28,133
当期変動額合計	28,133	28,133	110,677
当期末残高	100,441	100,441	4,661,084

キャッシュ・フロー計算書

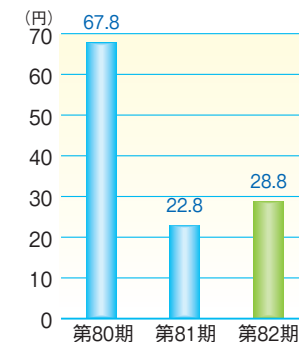
(単位:千円)

	平成24年3月期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)	平成23年3月期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,552	249,337
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 52,177	163,795
財務活動によるキャッシュ・フロー	597,492	△ 522,838
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,078	△ 6,313
現金及び現金同等物の増減額	540,683	△ 116,019
現金及び現金同等物の期首残高	907,108	1,023,128
現金及び現金同等物の期末残高	1,447,791	907,108

売上高経常利益率  
売上高当期純利益率



1株当たり当期純利益



■ 会社概要 (平成24年3月31日現在)

社 名 川本産業株式会社  
 設 立 昭和6年1月  
 資 本 金 883,000,000円  
 従 業 員 数 616名 (内、契約雇用者数120名)

■ 役員 (平成24年6月27日現在)

代表取締役社長 川 本 武  
 取締役会長 向 井 茂  
 ※取締役 安 藤 年  
 ※取締役 佐 々 木 功  
 ※取締役 岡 々 田 治  
 常勤監査役 川 本 新  
 常勤監査役 横 田 茂  
 監 査 役 日 上 俊  
 監 査 役 山 本 久

■ 執行役員 (平成24年6月27日現在)

執行役員 塩 野 宗 一  
 執行役員 岡 本 博  
 執行役員 川 本 純  
 執行役員 大 水 上 博

(注) 監査役日上俊彦、山本久男両氏は社外監査役であります。  
 ※印の取締役は執行役員を兼務しております。

■ 事業所

● 本 社 〒540-0022  
 大阪市中央区糸屋町2-4-1  
 TEL.06-6943-8951

- 支 店
- 東京支店 東京都杉並区阿佐谷北6-1-6
- 営業所
- 仙台営業所 宮城県仙台市泉区泉中央3-18-4 オフィス21泉4F
  - 千葉営業所 千葉県市川市大和田4-19-2
  - 埼玉営業所 埼玉県加須市花崎5-31-1
  - 日本橋営業所 東京都中央区東日本橋3-7-19 友泉東日本橋駅前ビル4F
  - 名古屋営業所 愛知県名古屋市中区城西3-12-12
  - 京都営業所 京都府京都市南区上鳥羽岩ノ本町82-1
  - 堺営業所 大阪府堺市堺区大浜南町2-5-8
  - 南大阪1・第2営業所 大阪府泉北郡忠岡町忠岡東3-14-20
  - 神戸営業所 兵庫県神戸市東灘区住吉南町3-3-5
  - 広島営業所 広島県広島市中区白島中町2-2
  - 福岡営業所 福岡県福岡市博多区博多駅東3-1-8 ヒロショービル2F

出張所

- 高松出張所 香川県高松市多肥下町21-1 香西ハウス1F

駐在所

- 北海道駐在所 北海道札幌市東区北23条東16-2-30 アルティール元町103号室
- 鹿児島駐在所 鹿児島県鹿児島市皇徳寺台3-68-1

工場

- 大阪工場 大阪府泉北郡忠岡町忠岡東3-14-20
- 埼玉工場 埼玉県加須市花崎5-31-2

物流

- 大阪和泉物流センター 大阪府和泉市伏屋町5-5-12



■ 株式の状況

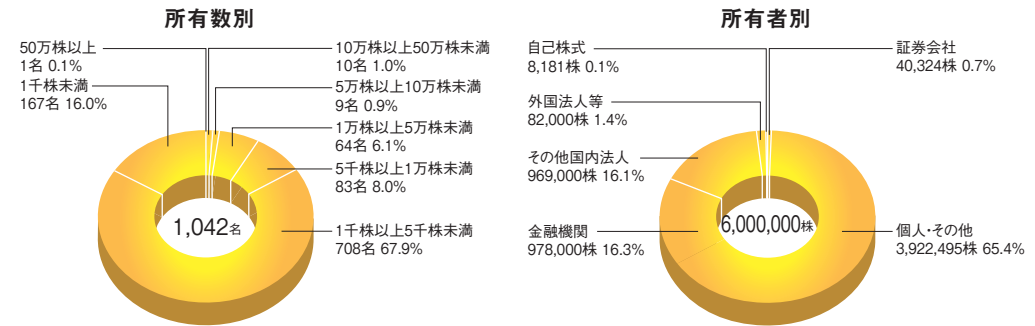
発行可能株式総数..... 16,000,000株  
 発行済株式の総数..... 6,000,000株  
 株主数..... 1,042名

■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
巴株式会社	600	10.0
川本社員持株会	443	7.4
川本 武	296	4.9
株式会社みずほ銀行	249	4.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	249	4.2
カワモト取引先持株会	223	3.7
伊藤忠商事株式会社	196	3.3
株式会社りそな銀行	175	2.9
川本 洋之助	170	2.9
第一生命保険株式会社	100	1.7
株式会社南日本銀行	100	1.7

※1. 持株比率は自己株式(8,181株)を控除して計算しております。  
 ※2. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。

■ 株主分布状況



■ 株価および売買高の推移

